

広島の新しい伝統 大イノコ祭り

孟宗竹88本による石動

石原悠一

(大イノコ祭り監修 大イノコ祭りを支える市民の会副会長)

一 大イノコ祭りとは

大イノコ祭りは、広島市街地の中心にある袋町公園で二日間行われ、延べ数千人の人数がある祭りで、会場の中央には芸術家石丸勝三氏が考案した「石動(いするぎ)」という、大石と竹と綱で作られたインスタレーションが鎮座している。1・5tの大石を中心に、長さ十三mの孟宗竹八十八本を直径二十mの円周上に立て、綱を竹の先端から中央に置かれた大石に引つ張り結ぶことにより、竹の張力によって大石が空中に吊り上がる仕組みになっている。

広島には古くから亥の子祭り(いのこまつり)という、各町内で行われている土着的な祭りがある。子どもたちが、「いのこ、いのこ、亥の子餅ついて、繁盛せい、繁盛せい」という歌の拍子に合わせて、亥の子石と呼ばれる石を地面に叩きつけ町内を練り歩く。猪

は多産であることもあり、商売繁盛や子孫繁栄、五穀豊穰などを願う祭りで、地域により拍子歌などの違いはあるようだが、広島を中心に中国地方や四国地方の一部に見られる祭りである。

大イノコ祭りは、この亥の子祭りを原風景として行っており、石動によっておこなう亥の子を「大イノコ」と呼んでいる。初日には子ども達が、二日目には大人が石動を完成させた後に大イノコを行う。各日に4名が順番に石動の大石の上に立ち、歌に合わせて大イノコを行う。大イノコ祭りに連動させて広島本通商店街の亥の子祭りも実施しており、子ども達は広島本通商店街で亥の子巡行した後に、袋町公園での大イノコを行っている。夜には祝祭があり、初日を表祝祭、二日目を裏祝祭と呼び、さまざまな表現の奉納や、餅まきなどの振る舞いが行われる。また、祝

祭前には大イノコ祭りの参道である広島本通商店街を、太鼓や演舞の一団が練り歩く「お練り(おねり)」も行われている。

二 大イノコ祭りの変遷

90年代始めに、大イノコ祭りの原型となる企画が行われており、石動のもとで地域住人と一緒に大イノコをしたり、いろいろな表現を奉納したりしていた。しかしその後バブルがはじけ、経済的な理由を背景に90年代後半に途絶えている。当時運営の中心となっていた人々は現在、広島文化活動の中心的な立場にあり、次の世代に経験などを伝えるべく様々な活動を続けている。その広島文化活動において、各種団体・組織の橋渡しをしつつ、自身も積極的に行政や地域に働きかけながら活動をしているのがNOP法人セトラ広島であり、その功績は大きく、大イノコ祭り



石動の造形（夜）中央には1.5 tの大石



大イノコの様子 大人が中央の大石の上に立つ



大イノコ祭りを支える市民の会の皆さん

においても陰の立役者になっている。そのNOP法人セトラ広島石丸良道氏の呼びかけにより、広島文化活動を担いつつある若い世代が集まり、2013年に大イノコ祭りは復活した。文化活動を継続してきた世代と、その世代に育てられた若い世代が繋がり、世代を超えたひとつのコミュニティの芽が出たのである。

2013年と2014年は助成金を受けて運営され、その二年間で運営に関わる基本的な知識や技能を共有し、三年目からは「竹主（たけぬし）」という形で竹八十八本分の協賛を募り、資金を集めて運営している。資金を

自己調達できる仕組みに変わったのに伴い、「大イノコ祭りを支える市民の会」（以下、市民の会）が主催となった。毎月会議をもちながら一年をかけて各機関・団体との連携をしている。市民の会の構成メンバーは、広島市中央部商店街振興組合連合会、うらぶくろ商店街振興組合、社会福祉協議会、町内会、小学校と子供会、NOP法人セトラ広島などのこの地域で活動している組織だけでなく、広島県内外から団体個人問わず多くの有志が集まっている。石工、庭師、建築業関係者、芸術家、ラジオパーソナリティ、デザイナー、銀行員、教育関係者、福祉関係者、クリーニ

ング店主など、すべて挙げることは出来ないが、多様な専門性を備えた人々が集まっている。

三 祭りが果たすもの

近年、町内会などの組織に参加しない人が増え、町内の祭りが行われない地域が増えてきている。原因は少子化や祭りの担い手になる世代のコミュニティがくずれていることにある。労働の在り方だけでなく、個人の趣味や余暇の過ごし方も多様化し、時間も手間もかかる地域の関係づくりに時間を割きにくくなっているようである。しかし、町内会など



大イノコ祭りの会場（夜）

の地域組織が安定し、学校や町内会などを中心にさまざまな活動が興り、地域住人のコミュニティが形成されている場合には、子どもの教育環境として充実しているだけでなく、災害などの非常時にも対応が迅速に行える。コミュニティを維持することは、地域の発展にとっても重要となる。

さらに商店街特有の課題もある。以前は商店主が店舗の二階や近隣に住んでいることが多く、商店街周辺の地域住人の強い繋がりがあつた。しかし現在は、テナント貸しとして

の店舗が多いため、本社の承諾なしに動けなかつたり、営業時間外の関わりが一切なかつたりするため、地域活動への協力が難しいのである。もちろん、各団体単位で清掃等の奉仕活動をしている場合も多い。しかし、店舗・団体同士の交流や、居住地としての地域コミュニティ作りは十分ではない。要するに、多くの人々が行き交い、集まる地域であつても、地場のコミュニティは空洞化しているのである。

一度コミュニティが崩壊すると、再び機能させるのはとても難しいことである。世代を超えて連綿と受け継がれてきた技術・伝統が途切れ、人を育てる経験や教わる経験を十分にしていない人々が生まれることになる。そのような人々が繋がるためには、輝ける場、楽しめる場が必要なのである。それが「祭り」という柔軟な器である。祭りを成り立たせるためには、とてもたくさんの技術が必要である。関わっているひとりひとりが得意なことを持ち寄り、補い合うことで作り上げていく。各場面や部門によって得意な人が仕切り、意見交換が行われながら進んでいく。リーダーシップとフォローシップが流動的に機能しているのである。その中では自然に世代間の交流が生まれ、知識や技能の伝承が行われる。祭りは、経済的な利害なくこのような機能を果たすとても貴重な場なのである。



竹林の整備



竹遊び☆ひろば

四 大イノコ祭りのこれから

大イノコ祭りには年々協力者が増え、内容も充実してきている。定番の竹酒や亥の子に因んだ猪料理、出汁からこだわり抜き石動を模した大イノコうどん、自然の食材を感じてほしいとスタジイやムカゴの料理も用意された。昨年から老舗和菓子店多津瀬様にご協力いただき、大イノコ祭りオリジナルの和菓子の販売も始まった。

「竹遊び☆ひろば」もあり、名人に教わりながら竹馬や竹とんぼ、竹笛などの竹細工をして遊ぶことができる。松本敏夫氏製作の竹で作られたスピーカーで音楽を流したり、竹の大型ブランコやスタードームなども作ったり、まさしく竹づくしの広場である。

また、装飾用の竹葉や子ども達の体験用の竹などは、その年ごとに場所を変えながら広島県内の竹林から採らせていただき、その際に竹林の整備も行っている。祭りの準備の一環で行うため、毎年若い世代は竹林の手入れの方法を学んでいる。その成果の一端が、昨年から作り始めた竹炭である。世羅園芸の兼丸一美氏のご指導のもと、竹林から竹を切り出し、すべての工程を市民の会で行い竹炭も製作した。

祭りという器に人々が集い、自分の得意なことを出し合って補い合い、意見の相違には折り合いをつけていく。祭りに正解などなく、続けることの中に答えがあるのだと思う。自

然とともに幸せに生きていくために地域を充実させ、次の世代に受け渡していきたい。大イノコ祭りは、竹が作り出す造形の壮大な美しさから、直感的に自然との繋がりを感ずることができている。その感動こそがすべての始まりなのではないだろうか。

(注) 今年(11月4日(土)、5日(日))、袋町

公園(広島市中区)にて開催。

大イノコ祭りホームページ

URL: <http://inoko.webcrow.jp>

石原 悠一(いしはら ゆういち)氏
大イノコ祭り 監修、大イノコ祭りを支える市民の会副会長、Blue Lab. Hiroshima 総合演出、ライブペインティングパフォーマンスや壁画制作、ボディペインティングなど国内外で活動している芸術家。

電話番号 〇九〇-七九七八-四七二四

E-mail: k.o.b.company@yahoo.co.jp

■大イノコ祭りを支える市民の会

〒七三〇-〇〇三五

広島市中区本通一-六 ミタキヤビル4F

電話番号 〇八二-五四五-七六一-一

E-mail: oinokoko@cetra.jp

URL: <http://inoko.webcrow.jp>

会誌 竹

本誌の原稿を募集しています。ご寄稿は次によりお願いいたします。

①寄稿の締切日

発行月(三・七・十一月)の二カ月前の十日まで。

②タイトル

ご自由にお決め下さい。

③原稿

二〇〇〇〜四〇〇〇字程度。写真、イラストなど二〜三枚を添えて下さい。

④電子データによる投稿について

アプリケーション・ソフトは「ワード」「エクセル」「太郎」を用いて入力し保存したものとし、写真はプリント・アウトした原画あるいは電子データ「jpg ファイル」とします。

⑤薄謝を呈します。

*ご連絡、お問い合わせは

竹文化振興協会

電話 〇七五-七六一-三六〇〇

ファックス 〇七五-七六一-三四六四

E-mail: j-bambooo@mbx.kyoto-inet.or.jp

